

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調査

(1) 取組名	「源流元気ラボ」の構築による源流再生プロジェクト 一流域における多様なセクターの連携による地域再生一			
(2) 実施団体名	山梨県小菅村	(3) 対象地域	小菅村	
(4) 代表団体名	—	(5) 推薦団体名	林野庁 国土交通省京浜河川事務所 全国源流の郷協議会	
(6) 実施した取組の内容	取組①	源流大学と連携した森林資源循環・作業道普及、開設による森林再生プロジェクト		
	実施主体	木づかい研究室 森林再生研究室		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
		<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 木づかい保健室プロジェクト—今年度にモデル事業を3件以上実施し、その成果を流域に普及する。 ・実施時期: 平成20年9月から12月 ・実施場所: 小菅村内及び多摩川流域 ・取組の目的: 怪我をした子ども達をあたかく優しい木の香りで迎える保健室づくり。間伐材を流域で活用し、その資金が源流の森へ還流する仕組みづくり。 ・実施内容: 大橋式作業道(水保全型)の普及と人材養成 ・実施時期: 平成20年9月から12月 ・実施場所: 小菅村村有林 ・取組の目的: 村有林に急峻な地形に適した路網技術である大橋式作業道をモデル的に整備し、可能性を明らかにすると同時に、この作業道を設置できる人材を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 小菅住民からなる「木づかい研究室」・「森林再生研究室」等を設置し、源流の木を使った木づかい保健室の立案。地元の小菅小中学校でモデル事業を実施し、その成果を基に流域の市区町村に向けて普及・営業開始。 ・実施時期: 平成20年9月から12月(間伐材の搬出、製材、加工、モデル事業実施、パンフレット作成、流域で営業活動開始) ・実施場所: 小菅村小学校、中学校、村有林、流域の自治体 ・取組の結果: 「木づかい保健室プロジェクト」の意義を源流大学で検討、パンフレットに反映。NHKテレビ、朝日新聞、東京新聞などが報道。流域の自治体へ営業活動を行い、その結果狛江市、川崎市、大田区の学校(5校)が来年度モデル事業を予定している。また、地元の木を使った商品開発プロジェクトが地域の林家や農家に希望を持たせつつある。 ・実施内容: 森林組合や源流大学、行政や農家林家による「森林再生研究室」を設置し、大橋慶三郎先生を招聘して現地等で人材養成現地研修会を実施し、研修内容を教材としてDVD、テキストにまとめる ・実施時期: 平成20年9月から1月 ・実施場所: 小菅村村有林 他 ・取組の結果: 「森林再生研究室」と森林組合事業による大橋式作業道を村有林内に700m設置。開設に合わせた研修会で新たな人材を確保できた。研修会参加者は、村内山林所有者・村内林家業・村内建設業者・北都留森林組合・林野庁・県森林環境事務所・全国源流の郷協議会構成町村などで、大橋式作業道が村内に普及し、その結果として民有林にも150m開設できた。 	
	取組②	源流資源の循環・活用・交流プロジェクト(「源流産業開発研究室」「健康づくり研究室」「源流文化研究室」を村民主動で設立)		
	実施主体	源流産業開発研究室		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果		
	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 新商品開発プロジェクト—村内の多様な資源を発掘し、小菅村の特産物を活用した新商品の開発。 ・実施時期: 平成20年9月から12月 ・実施場所: 小菅村中央公民館 他 ・対象者: 観光協会、商工会、旅館民宿経営者、漁協、村民 ・取組の目的: 小菅村の豊かな資源の商品化。具体的には、小菅村の特産物を活かした新商品の開発。イワナの新鮮な食感の商品化。ワサビは、村の手作り味噌を利用した商品開発。 ・実施内容: 天然冷蔵庫「室」の復活と活用(商品や原料貯蔵) ・実施時期: 平成20年8月から10月 ・実施場所: 小菅村大久保地区(小菅の湯近隣) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 小菅村の特産物を活用した「源流弁当」や「ワサビ味噌」など新商品の開発。(源流産業開発研究室や源流文化研究室の活動(研究会)として展開) ・実施時期: 平成20年9月から12月 ・実施場所: 小菅村中央公民館 他 ・対象者: 観光協会、商工会、旅館民宿経営者、漁協、村民 ・取組の結果: 健康と新鮮さを売りにした千円の「源流弁当」の弁当を試作。村で進めているエコツーリズムと「源流弁当」をリンクさせ価格・デザインを検討。「ワサビ味噌」を開発し、商品化を目指して研究室セミナーなどで検討中。 ・実施内容: 天然の冷蔵庫「室」の復活による伝統的な技の伝承による野菜・原料・商品・種などの保存。その機能性を研究中。 ・実施時期: 平成20年8月から11月 ・実施場所: 小菅村大久保地区(小菅の湯近隣) 		
取組③	源流健康づくり・源流物語創出プロジェクト			
実施主体	健康づくり研究室 源流文化研究室(村民・観光協会・商工会・婦人会・老人クラブ・PTA・源流大学など多様なセクターの参加)			
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果		
	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 源流健康づくりプロジェクト—源流健康研究室の活動として高齢者の健脚度調査の実施。源流大学と連携した元気高齢者の要因分析。健康づくりの普及と交流への活用。 ・実施時期: 平成20年8月から11月 ・実施場所: 小菅村各地区 ・取組の目的: 高齢者の優れた健脚度と健康維持の秘訣発見。健康の3大要素である食事、運動、休養を調査。 ・実施内容: 源流古道再生プロジェクト—地域の生活文化の調査・研究、源流文化や源流景観の可視化、源流ライセンス・源流ミュージアム等を通して情報の共有・ネットワーク化。 ・実施時期: 平成20年9月から12月 ・取組の目的: 情報の共有とネットワーク化。小菅村の歴史的・文化的資源を可視化し、観て、語り、体験できる源流物語の創出。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 高齢者の健脚度調査を実施。源流域では、高齢者の歩行能力が極めて高いことが判明。元気高齢者の要因を源流大学で分析。小菅村の生活文化や食文化との関連性を追及。 ・実施時期: 平成20年8月から11月 ・実施場所: 小菅村各地区 ・取組の結果: 高齢者の優れた健脚度の秘訣は、坂道など普段の運動量の多さと健康食・ヒューマンな人間関係など快適な源流ライフと判明。小菅村の畑仕事や山林仕事、散歩など健康増進体験や郷土料理をリストアップし、健康商品開発とライセンスを検討を進める。 ・実施内容: 源流古道調査を実施。源流大学と共に、小菅ヒノキのルーツを探求。源流ライセンスや源流ミュージアムのコンテンツとシステムを検討。 ・実施時期: 平成20年8月から11月 ・取組の結果: 小菅ヒノキのルーツを解明。小菅の良質なヒノキを「大菩薩ヒノキ」と命名。源流ライセンス認定、源流ミュージアムの構築。健康ルートやエコ・トレッキングルートの検討。源流文化研究室が中心となり、村内の高齢者の知識と技術を掘り起こして炭焼き釜を復元し、源流山村文化の体験事業や見学会への活用を検討。 		

	平成20年度の取組実施における体制・役割分担	取組の実施を踏まえた反省点
(7)実施体制	<p>・本事業の取組みは、小菅村と多摩川源流研究所が中核となり、より多くの地元住民の参加と役割分担(村民が参加する5つ研究室を設置「源流元気ラボ」)を明確にして事業を展開することに主軸をおいた推進体制で事業を実施した。また、多摩川流域の市民・NPO法人・大学・学識経験者・企業など多くのセクターが参加するプラットフォームを確立し、「源流元気ラボ」(プラットフォームから創造する実践プロジェクトの研究とその事業化)を図るべく研究協議の場を設け、事業展開に活かした。そして、これらを連携・協働・統括・調整する運営組織として「源流元気再生運営委員会」を組織し、事業実践におけるコーディネートとマネジメント(全体構想や事業内容の検討、実施計画の策定、部会の設置、役割分担や事業調整など)を行った。</p> <p>研究室は、各種事業を推進する実施組織として分野毎に、①源流木づかい研究室 ②源流産業開発研究室 ③源流健康づくり研究室 ④源流森林再生研究室 ⑤源流文化再生研究室の5つの研究室を設置して、地元住民が主体となり協働しながら実践的な研究協議会を開催し、源流元気再生に向けて実態を調査し、機能性や可能性を研究しながら実践活動を展開した。</p> <p>運営委員会では、各研究室の取組み内容や進捗状況、課題や今後の展望などを報告し、検討するプラットフォーム型の総合研究会(「中間・最終報告会」)を開催し、地元住民と流域市民(多様なセクター)が参加し、協働することによる「源流元気再生」のシステムをモデル的に構築することが出来た。</p>	<p>・取組①「木づかい保健室プロジェクト」など森林資源の循環利用の分野と森林再生の基盤づくりである大橋式作業道づくりの分野に関して、前者を「木づかい研究室」が、後者を「森林再生研究室」がそれぞれ担当し、貴重な成果を上げることが出来たが、それぞれの事業が進展する中で、両者を有機的に結合する相互研究が不可欠となった。源流大学の参画により、両者の共通認識が可能となったが、さらに源流大学及び各研究室との総合的な研究を進め水土保全整備(源流域の特性を活かした森林整備)のライセンス化とその普及を進める必要がある。</p> <p>・取組②小菅村の特産物を活かした新商品開発に関しては、「源流弁当」及び「ワサビ味噌」の商品化が確認されるなど、多様な郷土料理がリスト化される中で、源流商品としての方向性は明確になったが、各地区や各種団体が好みや料理法に差異があり、どの旅館や食堂がモデルを作るのかなど、調整に手間取った。村の特産品である「イワナ」の刺身(寿司など)を考えたが、鮮度(魚肉の歯ごたえ)低下などの難問があり、熱を通した弁当等での利用に切り替えた。ここでの源流商品開発は、本物、安心、健康などをキーワードとするライセンスの構築が必要と結論付けられた。源流大学や他の専門機関と連携した取り組みを検討する必要がある。</p> <p>・取組③健康づくりと源流古道再生は、それぞれの研究室が、源流の特徴を可視化する独自の課題を追求し、エコ・ミュージアム古道再生、小菅村の健康度の可視化など独自の成果を上げた。これからの源流における村づくりのキーワードは、「環境」「健康」「文化」を基本に流域パートナーシップを構築していく必要があることから、源流商品の安全性・機能性などに関する保証システム(源流ライセンス)やそのための生産・加工・流通システムに関する両者の共通認識の確保と融合が課題となった。</p> <p>・運営委事務局は、源流振興課と源流研究所が担当した。この元気再生事業を、「村ぐるみ」「村民ぐるみ」で取り組むという目標をたて、村民総参加による元気になる村づくりとして元気再生を進めた。推進体制、役割分担、関係者間の調整、広報、スケジュール管理などにおいて、役場職員も総参加し、村内すべてのセクター及び全集落からの参加者を得て、ほぼ計画通り実施することが出来た。</p>
(8)取組により得られた成果	<p>○成果1→ 「源流元気ラボ」を設置し、源流の資源の再評価を図り、交流人口の拡大と魅力溢れる源流物語の創出</p> <p>H19 現在の交流人口16万人、連携組織27団体</p> <p>H20(実際に得られた成果) ・村民と村外の多様な人材(セクター)の連携や交流により研究協議を展開し、参加型の元気再生事業推進モデルを構築することが出来た。特に、村民が総参加し、協働する村ぐるみ、村民ぐるみの取組みや、今まであまり連携していなかった各種セクターが本事業の一同に加わる取り組みは、村で何かが起こるとい一体感が生まれつつあり、村民のヤル気や意気込みが高まりが見られ、今後の村づくりへの大きな力となった。 ・源流大学の森林体験、農業体験、文化体験に2500人が参加、夏の源流体験は昨年度より500人参加が増えた。合計3000人の交流人口の増加。 ・全国源流の森協議会や源流体験、源流元気再生を通して、新たに6団体と連携が確立し、連携組織は33団体に拡大した。また、最近では下流域の企業も興味を持って接してきている。</p> <p>○成果2→ 源流資源を活用した源流産業の開発と交流連携の促進</p> <p>H19 多品目少量の源流資源、基幹商品が少ない。商品としての生産と流通システムの未整備</p> <p>H20(実際に得られた成果) ・大橋式作業道人材養成研修を通して大橋式作業道への認識が高まり、村有林に本線を700m、支線を200m開設できた。また、民有林にも150m開設できたことで、間伐や枝打ちなどの管理が可能になった。また、今まで捨て伐り間伐であったものが作業道が整備されたことで間伐材の搬出が可能となり、間伐材の活用と源流材のブランド化に道を開いた。 ・大橋式作業道の普及のために人材養成現地研修会を2回開催し、北都留森林組合、地元の農林家、建設業者などが研修を積み、大橋式作業道を自らの所有林に開設したいとの意欲が高まるなど、大橋式作業道の担い手が育ちつつある。この取組は、NHK大阪が取材し、全国報道されるなど全国的にも関心と注目が広がりがつつある。急傾斜地に適した水土保全型の大橋式作業道への理解が広がるとともに、源流域の水土保全林の路網整備のモデルとしての可能性が示唆された。 ・公共事業の縮減で低迷している建設業も大橋式作業道人材養成研修に参加し、緑の公共事業への関心と参加意欲が高まった。 ・「木づかい保健室プロジェクト」は、元気再生事業によって地元で第一号、第二号が完成した。この成果をパンフレットにまとめ、流域に普及させるために営業をかけた。来年度に狛江市、川崎市、大田区でモデル事業が開始されることになった。この取り組みも反響が大きく、新聞テレビなどで広く報道された。源流材のブランド化や源流材の生産・加工・流通モデルが明確にされた。 ・「源流の木で家を作るプロジェクト」は、大田区で第一号、第二号が完成した。源流の木は好評であり、今後の波及効果が期待される。さらに源流大学や他の機関と連携し、源流材のブランド化と建築・デザインなどのシステムをライセンスとする目標ができた。 ・特産物を活かした新商品開発に関して、「源流弁当」「ワサビ味噌」の商品企画が固まった。研究室や運営委員会で次なる商品開発を進めるとともに、各旅館、民宿、食堂などで実践的な研究を深めている。 ・古道や源流健康力の秘訣の解明が進み、健康、癒しルートプログラムや健康郷土料理の再発掘への足がかりが出来た。 ・村のヒノキのルーツを探り「大菩薩ヒノキ」と命名し、ヒノキ材のブランド化への第一歩を踏み出し、利用拡大へ前進している。 ・村の高齢者の知恵や技術を掘り起こし、室や炭焼き窯の復元に成功した。源流文化の再生と伝承により体験事業など集客力ある源流物語が生まれた。</p>	<p>H20(当初予定していた目標) 「源流元気ラボ」等の設置により、交流人口を5千名拡大する。各種研究室(源流元気ラボ)をはじめ環境保全活動や森林体験、農業体験、文化体験など源流体験事業等を通して、源流と密接な連携組織(源流プラットフォーム)を30団体に拡大する。</p> <p>H20(当初予定していた目標) 源流ヒノキの産直住宅、木づかい保健室プロジェクト、大橋式作業道(水土保全型)の設置・普及による森林再生などの事業の具体化。</p>

<p>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p>	<p>20年度の本事業は、今まで村が取り組んできた多様な村づくり事業を総括し、村民が総参加による協働の村づくりに取り組むための基盤づくりができた。 具体的には、木づかい、森林再生、産業開発、源流文化、健康づくりなど5つの研究室に多くの村民や村のすべてのセクターを動員し、かつ、事務局として村全職員が事業に関わり、行政と住民が総がかりで元気再生事業に取り組んだ。 成果としては、①村内の自然的・社会的・文化的資源の可視化やリスト化が可能となったこと。②村内の多様な資源の中から新商品として「源流ひのき材の家」「源流木づくり保健室」「源流弁当」「わさび味噌」が生まれ、さらに「源流健康生活」「源流食と健康」「源流古道と癒し」「源流物語」等が次の予備商品として検討されているなど、自らの村の自然や文化をブランド化するなど付加価値をつけるシステムが出来つつある。③既に設置されている源流大学や下流域の多様なセクターとのプラットフォーム型の委員会やフォーラムを行うことで、村の新商品や村自身を売り出すきっかけ、販売チャンスを開拓することが出来るようになった。④森林再生研究室に明らかのように、急峻な地形や水源地という特徴から水土保持林を整備するモデル基盤整備、大橋式作業道を導入し、実践する中で、切捨間伐から利用間伐に転換し、間伐材を「木づくり保健室」として商品化するなど、新たな森林・林業生産・整備システムを構築した。などの成果が生まれ、何よりも村が元気になりつつある。 こうした中で、これからは、①源流の多様な資源をさらに可視化し、それを商品として認定する仕組みが必要になってきた。さらに、②そのためには、源流大学との連携をさらに強め、源流商品の科学的価値化を進め、③下流域に普及・宣伝・販売する基盤づくりを早急に構築する必要がある。そのことによって、村民の新たなアイデアを商品とすることが可能となるとともに、参加する意味が明確になる。</p>												
<p>(10)平成21年度以降の活動の見込み</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="280 359 761 391"> <p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> </td> <td data-bbox="761 359 2087 391"> <p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="280 391 761 518"> <p>(1)源流プラットフォームと「源流元気ラボ」の充実 (H21～H23) ・提案された多様なプロジェクトのリンク・コーディネート・マネージメントの確立。</p> </td> <td data-bbox="761 391 2087 518"> <p>(1)源流プラットフォームと「源流元気ラボ」体制を構築:源流大学を核とした科学的な商品評価システムの確立(平成21～23年度) ・実施主体:大学連携による源流大学コンソーシアムと小菅村(源流研究所)を核にする源流元気再生運営委員会との連携。 ・実施内容:小菅村で生産されるあらゆる源流商品に、「源流元気ラボ」による科学的な「評価システム」の制度の導入。 ・実施目的:少量・多品目の源流元気商品生産流通システムの確立。源流から河口・海までの流域総参加型システムの構築。 【上記について地方の元気再生の継続支援を希望 「想定金額400万」】</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="280 518 761 710"> <p>(2)源流資源の循環・活用・交流システムの整備 (H21～H23) ・源流ヒノキによる産直住宅の生産、木づかい保健室プロジェクトの推進。</p> </td> <td data-bbox="761 518 2087 710"> <p>(2)「木づかい多摩エコスクールプロジェクト」の推進・「源流弁当」「ワサビ味噌」「木工製品」など資源の活用・普及 ・実施主体:木づかい研究室・源流産業開発研究室 ・実施内容:源流木材を活用して、学校の保健室、多目的教室の壁、廊下などをリフォームする。また、特産分の商品化を図り、源流エコツアー・温泉とリンクさせ普及させる ・実施目的:間伐材を流域の小中学校などで活用する道を開けば、源流の森林が元気になるし、木の文化を子ども達へ伝えられる。また、小菅の特産物を商品化し流域で流通できる仕組みを構築。小規模水力・木質バイオマスの開発と活用。 【上記について地方の元気再生の継続支援を希望 「想定金額500万」】</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="280 710 761 885"> <p>(3)源流・森林再生事業の推進(H21～H23) ・緑の公共事業の構築と推進、水土保持林路網(大橋式路網)の整備と流域参加型森林管理、緑の公共事業のモデル事業化。</p> </td> <td data-bbox="761 710 2087 885"> <p>(3)「蘇れ源流の森プロジェクト」の推進:源流域の森林を流域全体の財産である水土保持林と位置づけ、大橋式路網の整備と支援制度の確立、全国への普及、緑の公共事業の創出と普及 ・実施主体:森林再生研究室・北部留森林組合・林家・土建業・源流大学 ・実施内容:大橋式路網の整備による森林整備と素材生産の推進。大橋式路網の評価と設置基準の確立、国への認知と支援制度の確立。源流大学による人材育成と全国への普及。 ・実施目的:地球温暖化防止・二酸化炭素削減に向けた森林再生の推進。人工林の管理、経営、保全のための基盤づくり。急傾斜地における尾根を活用した路網づくり、 掘水工法による山の保全。 【上記について地方の元気再生の継続支援を希望 「想定金額500万」】</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="280 885 761 1093"> <p>(4)源流健康づくり(H21～H23) ・源流文化再生に関する調査研究。健康癒しルートプログラム、健康郷土料理、薬草・薬樹の再発掘。多様な源流物語の開発と普及</p> </td> <td data-bbox="761 885 2087 1093"> <p>(4)「源流健康ライフによる魅力ある源流物語創出プロジェクト」の推進 ・実施主体:健康づくり研究室・源流文化研究室・村民・源流大学・小中学校 ・実施内容:高齢者の抜群の健脚力の秘訣を解明。「源流健康カライセンス:健康食と源流散歩・トレッキングと源流ライフ」の整備と普及。歴史と文化の香り豊かな牛ノ寝通りを健康力増強に活用。大菩薩ヒノキを育てるために「学術研究・遺伝子保存プロジェクト」の推進。水車の復活による源流の郷づくり。源流農村景観保存事業。など源流資源の商品化と源流物語の融合を進める ・実施目的:健康と文化を活かした村づくり。源流空間:「豊かな緑・美味しい水・爽やかな空気」の価値化とエコツアーへの活用。「小菅元気村づくり」構想の推進。健康郷土料理と温泉の活用。薬草・薬樹の再発掘・活用による健康増進。研究室とプラットフォームの機能的運営手法の開発 【上記について地方の元気再生の継続支援を希望 「想定金額400万」】</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="280 1093 761 1318"> <p>(5)源流ライセンスの構築(H21～H23) ・源流学講座・環境教育拠点・源流情報センター、源流商品開発・流通センター、源流ミュージアムの整備 ・源流元気再生運営委員会の内部に源流ライセンス委員会を設置する ・21世紀の人材育成基本システムモデル事業の実施。 ・源流再生システムの構築:源流の可視化、商品化、ブランド化、ライセンス化そして人材育成など総合的な地域運営システムの構築</p> </td> <td data-bbox="761 1093 2087 1318"> <p>(5)源流大学による人材育成システムモデル事業の実施:元気再生事業と源流大学を融合した源流ライセンス、源流学講座、源流ミュージアム、源流環境教育の推進 ・実施主体:源流研究所・源流大学・源流元気再生運営委員会・村民・下流域の多様なセクター ・実施内容:「健康と環境と文化を活かした村づくり」構想の検討と実践、「森林体験・農業体験・文化体験・源流体験」など体験・参加型による環境人育成システムの構築の実践。「源流ライセンス」確立に向けた検討委員会の設置。源流ミュージアム構想の実践。源流ネットワークの形成。地域元気再生システムモデルと人材育成モデルの構築。 ・実施目的:源流大学を活かした地域再生システムの推進。源流大学による地域再生論の研究と「源流情報センター」の設置、村ぐるみ・村民ぐるみの元気再生事業のモデル構築と普及。【上記について地方の元気再生の継続支援を希望 「想定金額500万」】</p> </td> </tr> </table>	<p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p>	<p>(1)源流プラットフォームと「源流元気ラボ」の充実 (H21～H23) ・提案された多様なプロジェクトのリンク・コーディネート・マネージメントの確立。</p>	<p>(1)源流プラットフォームと「源流元気ラボ」体制を構築:源流大学を核とした科学的な商品評価システムの確立(平成21～23年度) ・実施主体:大学連携による源流大学コンソーシアムと小菅村(源流研究所)を核にする源流元気再生運営委員会との連携。 ・実施内容:小菅村で生産されるあらゆる源流商品に、「源流元気ラボ」による科学的な「評価システム」の制度の導入。 ・実施目的:少量・多品目の源流元気商品生産流通システムの確立。源流から河口・海までの流域総参加型システムの構築。 【上記について地方の元気再生の継続支援を希望 「想定金額400万」】</p>	<p>(2)源流資源の循環・活用・交流システムの整備 (H21～H23) ・源流ヒノキによる産直住宅の生産、木づかい保健室プロジェクトの推進。</p>	<p>(2)「木づかい多摩エコスクールプロジェクト」の推進・「源流弁当」「ワサビ味噌」「木工製品」など資源の活用・普及 ・実施主体:木づかい研究室・源流産業開発研究室 ・実施内容:源流木材を活用して、学校の保健室、多目的教室の壁、廊下などをリフォームする。また、特産分の商品化を図り、源流エコツアー・温泉とリンクさせ普及させる ・実施目的:間伐材を流域の小中学校などで活用する道を開けば、源流の森林が元気になるし、木の文化を子ども達へ伝えられる。また、小菅の特産物を商品化し流域で流通できる仕組みを構築。小規模水力・木質バイオマスの開発と活用。 【上記について地方の元気再生の継続支援を希望 「想定金額500万」】</p>	<p>(3)源流・森林再生事業の推進(H21～H23) ・緑の公共事業の構築と推進、水土保持林路網(大橋式路網)の整備と流域参加型森林管理、緑の公共事業のモデル事業化。</p>	<p>(3)「蘇れ源流の森プロジェクト」の推進:源流域の森林を流域全体の財産である水土保持林と位置づけ、大橋式路網の整備と支援制度の確立、全国への普及、緑の公共事業の創出と普及 ・実施主体:森林再生研究室・北部留森林組合・林家・土建業・源流大学 ・実施内容:大橋式路網の整備による森林整備と素材生産の推進。大橋式路網の評価と設置基準の確立、国への認知と支援制度の確立。源流大学による人材育成と全国への普及。 ・実施目的:地球温暖化防止・二酸化炭素削減に向けた森林再生の推進。人工林の管理、経営、保全のための基盤づくり。急傾斜地における尾根を活用した路網づくり、 掘水工法による山の保全。 【上記について地方の元気再生の継続支援を希望 「想定金額500万」】</p>	<p>(4)源流健康づくり(H21～H23) ・源流文化再生に関する調査研究。健康癒しルートプログラム、健康郷土料理、薬草・薬樹の再発掘。多様な源流物語の開発と普及</p>	<p>(4)「源流健康ライフによる魅力ある源流物語創出プロジェクト」の推進 ・実施主体:健康づくり研究室・源流文化研究室・村民・源流大学・小中学校 ・実施内容:高齢者の抜群の健脚力の秘訣を解明。「源流健康カライセンス:健康食と源流散歩・トレッキングと源流ライフ」の整備と普及。歴史と文化の香り豊かな牛ノ寝通りを健康力増強に活用。大菩薩ヒノキを育てるために「学術研究・遺伝子保存プロジェクト」の推進。水車の復活による源流の郷づくり。源流農村景観保存事業。など源流資源の商品化と源流物語の融合を進める ・実施目的:健康と文化を活かした村づくり。源流空間:「豊かな緑・美味しい水・爽やかな空気」の価値化とエコツアーへの活用。「小菅元気村づくり」構想の推進。健康郷土料理と温泉の活用。薬草・薬樹の再発掘・活用による健康増進。研究室とプラットフォームの機能的運営手法の開発 【上記について地方の元気再生の継続支援を希望 「想定金額400万」】</p>	<p>(5)源流ライセンスの構築(H21～H23) ・源流学講座・環境教育拠点・源流情報センター、源流商品開発・流通センター、源流ミュージアムの整備 ・源流元気再生運営委員会の内部に源流ライセンス委員会を設置する ・21世紀の人材育成基本システムモデル事業の実施。 ・源流再生システムの構築:源流の可視化、商品化、ブランド化、ライセンス化そして人材育成など総合的な地域運営システムの構築</p>	<p>(5)源流大学による人材育成システムモデル事業の実施:元気再生事業と源流大学を融合した源流ライセンス、源流学講座、源流ミュージアム、源流環境教育の推進 ・実施主体:源流研究所・源流大学・源流元気再生運営委員会・村民・下流域の多様なセクター ・実施内容:「健康と環境と文化を活かした村づくり」構想の検討と実践、「森林体験・農業体験・文化体験・源流体験」など体験・参加型による環境人育成システムの構築の実践。「源流ライセンス」確立に向けた検討委員会の設置。源流ミュージアム構想の実践。源流ネットワークの形成。地域元気再生システムモデルと人材育成モデルの構築。 ・実施目的:源流大学を活かした地域再生システムの推進。源流大学による地域再生論の研究と「源流情報センター」の設置、村ぐるみ・村民ぐるみの元気再生事業のモデル構築と普及。【上記について地方の元気再生の継続支援を希望 「想定金額500万」】</p>
<p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p>												
<p>(1)源流プラットフォームと「源流元気ラボ」の充実 (H21～H23) ・提案された多様なプロジェクトのリンク・コーディネート・マネージメントの確立。</p>	<p>(1)源流プラットフォームと「源流元気ラボ」体制を構築:源流大学を核とした科学的な商品評価システムの確立(平成21～23年度) ・実施主体:大学連携による源流大学コンソーシアムと小菅村(源流研究所)を核にする源流元気再生運営委員会との連携。 ・実施内容:小菅村で生産されるあらゆる源流商品に、「源流元気ラボ」による科学的な「評価システム」の制度の導入。 ・実施目的:少量・多品目の源流元気商品生産流通システムの確立。源流から河口・海までの流域総参加型システムの構築。 【上記について地方の元気再生の継続支援を希望 「想定金額400万」】</p>												
<p>(2)源流資源の循環・活用・交流システムの整備 (H21～H23) ・源流ヒノキによる産直住宅の生産、木づかい保健室プロジェクトの推進。</p>	<p>(2)「木づかい多摩エコスクールプロジェクト」の推進・「源流弁当」「ワサビ味噌」「木工製品」など資源の活用・普及 ・実施主体:木づかい研究室・源流産業開発研究室 ・実施内容:源流木材を活用して、学校の保健室、多目的教室の壁、廊下などをリフォームする。また、特産分の商品化を図り、源流エコツアー・温泉とリンクさせ普及させる ・実施目的:間伐材を流域の小中学校などで活用する道を開けば、源流の森林が元気になるし、木の文化を子ども達へ伝えられる。また、小菅の特産物を商品化し流域で流通できる仕組みを構築。小規模水力・木質バイオマスの開発と活用。 【上記について地方の元気再生の継続支援を希望 「想定金額500万」】</p>												
<p>(3)源流・森林再生事業の推進(H21～H23) ・緑の公共事業の構築と推進、水土保持林路網(大橋式路網)の整備と流域参加型森林管理、緑の公共事業のモデル事業化。</p>	<p>(3)「蘇れ源流の森プロジェクト」の推進:源流域の森林を流域全体の財産である水土保持林と位置づけ、大橋式路網の整備と支援制度の確立、全国への普及、緑の公共事業の創出と普及 ・実施主体:森林再生研究室・北部留森林組合・林家・土建業・源流大学 ・実施内容:大橋式路網の整備による森林整備と素材生産の推進。大橋式路網の評価と設置基準の確立、国への認知と支援制度の確立。源流大学による人材育成と全国への普及。 ・実施目的:地球温暖化防止・二酸化炭素削減に向けた森林再生の推進。人工林の管理、経営、保全のための基盤づくり。急傾斜地における尾根を活用した路網づくり、 掘水工法による山の保全。 【上記について地方の元気再生の継続支援を希望 「想定金額500万」】</p>												
<p>(4)源流健康づくり(H21～H23) ・源流文化再生に関する調査研究。健康癒しルートプログラム、健康郷土料理、薬草・薬樹の再発掘。多様な源流物語の開発と普及</p>	<p>(4)「源流健康ライフによる魅力ある源流物語創出プロジェクト」の推進 ・実施主体:健康づくり研究室・源流文化研究室・村民・源流大学・小中学校 ・実施内容:高齢者の抜群の健脚力の秘訣を解明。「源流健康カライセンス:健康食と源流散歩・トレッキングと源流ライフ」の整備と普及。歴史と文化の香り豊かな牛ノ寝通りを健康力増強に活用。大菩薩ヒノキを育てるために「学術研究・遺伝子保存プロジェクト」の推進。水車の復活による源流の郷づくり。源流農村景観保存事業。など源流資源の商品化と源流物語の融合を進める ・実施目的:健康と文化を活かした村づくり。源流空間:「豊かな緑・美味しい水・爽やかな空気」の価値化とエコツアーへの活用。「小菅元気村づくり」構想の推進。健康郷土料理と温泉の活用。薬草・薬樹の再発掘・活用による健康増進。研究室とプラットフォームの機能的運営手法の開発 【上記について地方の元気再生の継続支援を希望 「想定金額400万」】</p>												
<p>(5)源流ライセンスの構築(H21～H23) ・源流学講座・環境教育拠点・源流情報センター、源流商品開発・流通センター、源流ミュージアムの整備 ・源流元気再生運営委員会の内部に源流ライセンス委員会を設置する ・21世紀の人材育成基本システムモデル事業の実施。 ・源流再生システムの構築:源流の可視化、商品化、ブランド化、ライセンス化そして人材育成など総合的な地域運営システムの構築</p>	<p>(5)源流大学による人材育成システムモデル事業の実施:元気再生事業と源流大学を融合した源流ライセンス、源流学講座、源流ミュージアム、源流環境教育の推進 ・実施主体:源流研究所・源流大学・源流元気再生運営委員会・村民・下流域の多様なセクター ・実施内容:「健康と環境と文化を活かした村づくり」構想の検討と実践、「森林体験・農業体験・文化体験・源流体験」など体験・参加型による環境人育成システムの構築の実践。「源流ライセンス」確立に向けた検討委員会の設置。源流ミュージアム構想の実践。源流ネットワークの形成。地域元気再生システムモデルと人材育成モデルの構築。 ・実施目的:源流大学を活かした地域再生システムの推進。源流大学による地域再生論の研究と「源流情報センター」の設置、村ぐるみ・村民ぐるみの元気再生事業のモデル構築と普及。【上記について地方の元気再生の継続支援を希望 「想定金額500万」】</p>												

「源流元気ラボ」の構築による源流再生プロジェクト(山梨県小菅村)

—流域における多様なセクターの連携による地域再生—

平成20年度 地方の元気再生事業
事業実施調書 参考資料

—山梨県小菅村—

◆取組実施による成果・今後の展開◆

・村民が主体となり、村の課題解決のために、村の資源を持続的に利用するための商品やモデルづくりを行ったことにより、自分たちの活動が地域の元気に直結することが実感された
→村で暮らしていけるという活力とヤル気が生まれた

H21年度以降の展開

- 多様なプロジェクトのコーディネーターの育成 → 源流元気ラボの体制を強化する
- 資源利用と交流をリンクさせ、流域へ普及する → 木づかいエコスクールプロジェクトの推進
- 交流プログラムの開発と整備 → 魅力ある源流物語創出プロジェクトの推進
- 各種事業の担い手を育成する → 源流大学による人材育成システムモデル事業の実施

◆主な実施取組の内容◆

源流プラットホームと源流元気ラボの設置—源流元気再生運営委員会の設置

村民が参加し、流域で活動する学識者やNPOをアドバイザーとし、源流元気再生運営委員会を設置。村民が主体となる5つの研究室をつなぎ、課題解決に向け協力していくために運営した。

村民が総参加し、協働した取り組みとなり、これまで連携していなかった村内や流域のセクターが一つとなった。これにより、村の課題解決に向けた一体感が生まれた。



源流大学と連携した森林資源・作業道の開設による森林再生プロジェクト (木づかい研究室・森林再生研究室の設置)

- 1、木づかい保健室の立案
小菅小中学校でモデル事業の実施し、その成果を基に流域の市町村へ普及・営業活動を展開
→NHKなどテレビ、朝日新聞などマスコミ5社が報道
・狛江市や川崎市など5校でモデル事業を予定
- 2、作業路の開設による森林再生
作業路網の第一人者である大橋慶三郎氏を招聘し、実践的な研究会と人材養成を目的とするモデル事業を実施
→大橋式作業路をモデル林の村有林に700m設置
・村内建設業者等の参加により、新たな人材を養成



源流資源の循環・活用・交流プロジェクト (源流産業開発研究室の設置)

- 1、小菅村の資源を活かした新商品の開発
村の豊かな資源を実感できる「源流弁当」や、村の特産品の新たな消費を引き出すため「ワサビ味噌」を開発。デザインや価格を検討した
→観光業者と村民が参加し「源流弁当」を試作
・研究室セミナーで「ワサビ味噌」を商品化を検討
- 2、小菅村の資源を活かした交流商品開発
天然の冷蔵庫である「室」を復活させ、その機能性を検証しながら、新たな活用法を検討
→伝統的な技を知るツアーなどへ発展



源流健康づくり・源流物語創出プロジェクト (源流健康研究室・源流文化研究室の設置)

- 1、源流健康づくりプロジェクト
源流域の高齢者が元気であることから、その健脚度や要因を源流大学と連携し調査分析を行った
→高齢者の歩行能力が極めて高いことが判明
・その要因は坂の多い環境や、健康的な食生活、近所づきあいなどの生活文化によることが判明
- 2、源流古道再生プロジェクト
地域の生活文化の調査や研究を行い、源流ミュージアムやライセンスの整備により、村外の多様なセクターと連携できる情報の共有化を図った
→小菅ヒノキのルーツを解明、「大菩薩ヒノキ」と命名
・健康ルートやエコトレッキングルートを検討
・炭窯づくりをモデルに技を継承する人材育成を実施

